

パネルディスカッション 「どのようにデータ社会を実現していくのか」

【パネラー】

越塚 登
眞野 浩
平本 健二
中島 一雄
足立 寛子

【モデレーター】

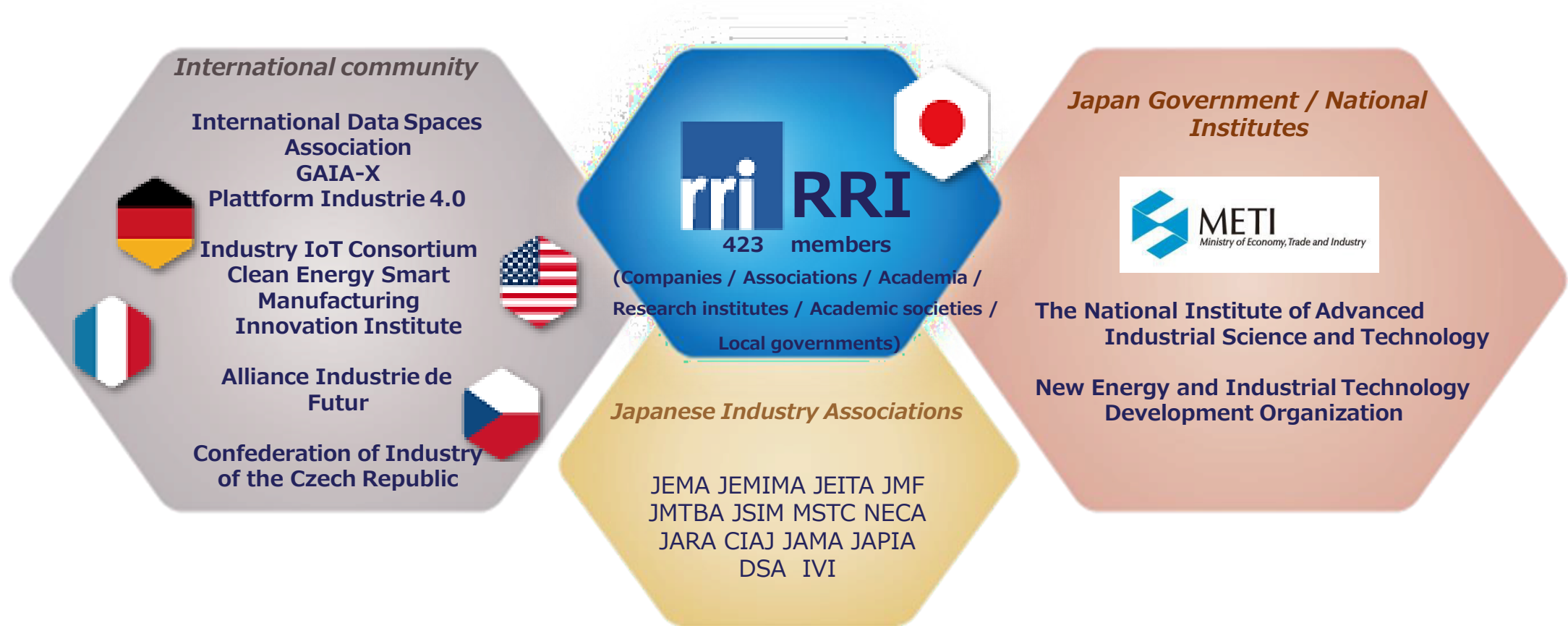
インプレス編集主幹
田口 潤



中島 一雄（なかしま かずお）

- ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会 インダストリアルIoT推進統括
- IEC Smart Manufacturing Systems Committee (SyC SM) 以下の会合の国際エキスパート
 - WG1 Use Cases & Supporting IT Tools
 - WG2 Terminology
 - WG3 Navigation Tools for SyC SM
 - AG1 Marketing, Outreach and Communication
- IEC SyC SM国内審議団体 事務局長

<https://www.jmfrri.gr.jp/>



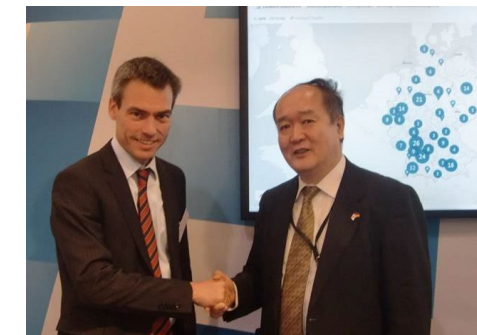
Organization name of Japanese Industrial Association

JEMA: The Japan Electrical Manufacturers' Association, JEMIMA: Japan Electric Measuring Instruments Manufacturers' Association, JEITA: Japan Electronics and Information Technology Industries Association, JMF: The Japan Machinery Federation, JMTBA: Japan Machine Tool Builders' Association, JSIM: The Japan Society of Industrial Machinery Manufacturers, MSTC: Manufacturing Science and Technology Center, NECA: Nippon Electric Control Equipment Industries Association, JARA: Japan Robot Association, CIAJ: Communications and Information Network Association of Japan, JAMA: Japan Automobile Manufacturers Association, JAPIA: Japan Auto Parts Industries Association, DSA: Data Society Alliance, IVI: Industrial Value Chain Initiative

2011 独 インダストリー
4.0 発表

2015 RRI発足

2016 経産省 – 独政府との連携協力発表。
実行部隊としてRRI – 独 I4.0 共同声明。
以降、国際標準化、産業セキュリティ、中小
企業支援、プラットフォーム経済に関する専門
家会合が設置され、春 ハノーバーメッセ、秋
RRIシンポジウムにて連携成果発表。



2017 経産省 Connected Industries発表。
日独政府 第四次産業革命に関する日独協力の
枠組みを定めた「ハノーバー宣言」に署名。

2019 RRI - 独調査団実施

2023 RRI – 第2回
独調査団実施

RRI 国際シンポジウム 2022.10より



パネラー自己紹介

国立印刷局
足立 氏

パネルディスカッション

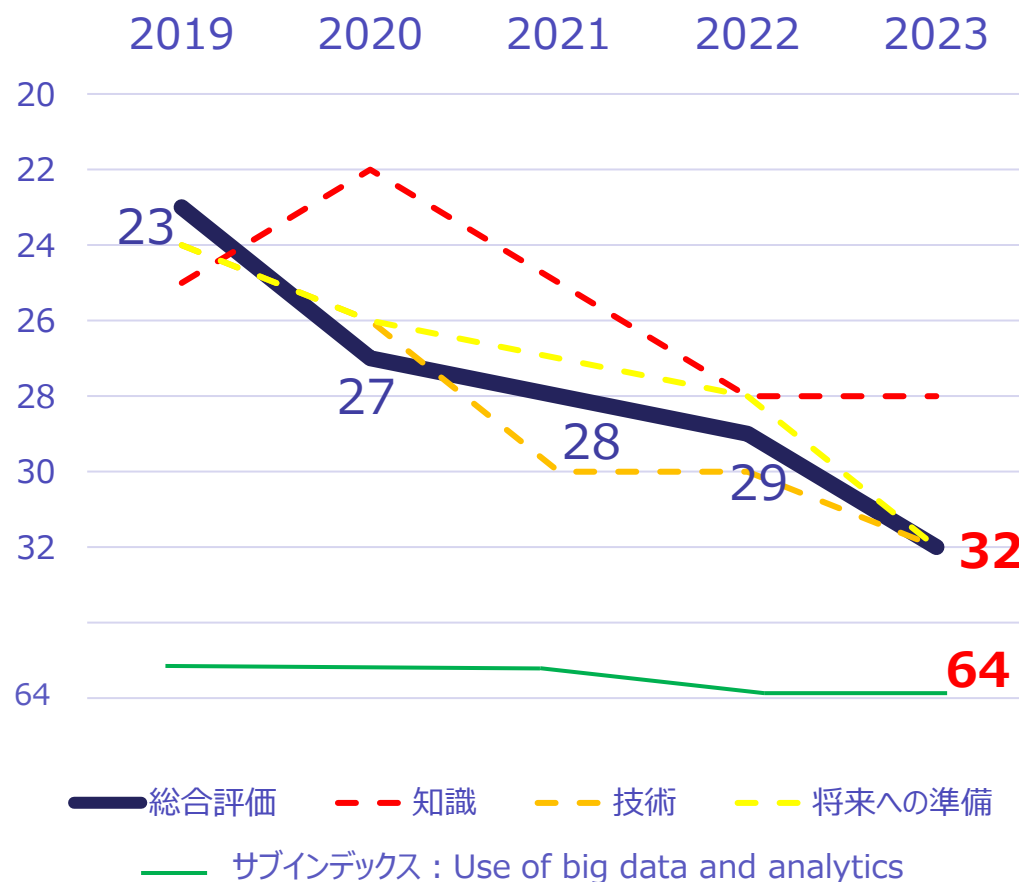
どのようにデータ社会を実現していくのか

ディスカッションペーパー

- ◆ 2020年12月 データ戦略タスクフォース第一次取りまとめ
- ◆ 2021年1月 データ社会推進協議会を設立（既存団体を統合）
- ◆ 2021年6月 包括的データ戦略
- ◆ 2022年3月 政府相互運用性フレームワーク公表
- ◆ 2023年4月 ウラノスエコシステムの開始
- ◆ 2023年7月 IPAにデジタル基盤センター設立
- ◆ 2023年11月 AI学習データの提供促進に向けたアクションプラン
- ◆ 2023年11月 IDSA Tokyo hub設立
- ◆ 2023年12月 AI時代の官民データ整備・連携に向けたアクションプラン
- ◆ 2024年1月 IPA－DSAのMoU締結
- ◆ 2024年1月 データ未来会議
- ◆ 2024年2月 International Open Forum on Data society
- ◆ 2024年3月 データマネジメント2024
- ◆ 2024年3月 2023年度成果群

世界を取り巻く大きな流れ

IMDデジタル競争力ランキング2023 (64か国)



OECD OURdata Index 2023 (40カ国)

全体 **25位** (前回2019年調査 4位)

アベイラビリティ	17位 (※)
高価値データのアベイラビリティ	20位
アクセシビリティ (品質など)	34位
高価値データのアクセシビリティ	33位
政府内への支援	16位 (※)

※はOECD平均より上の評価

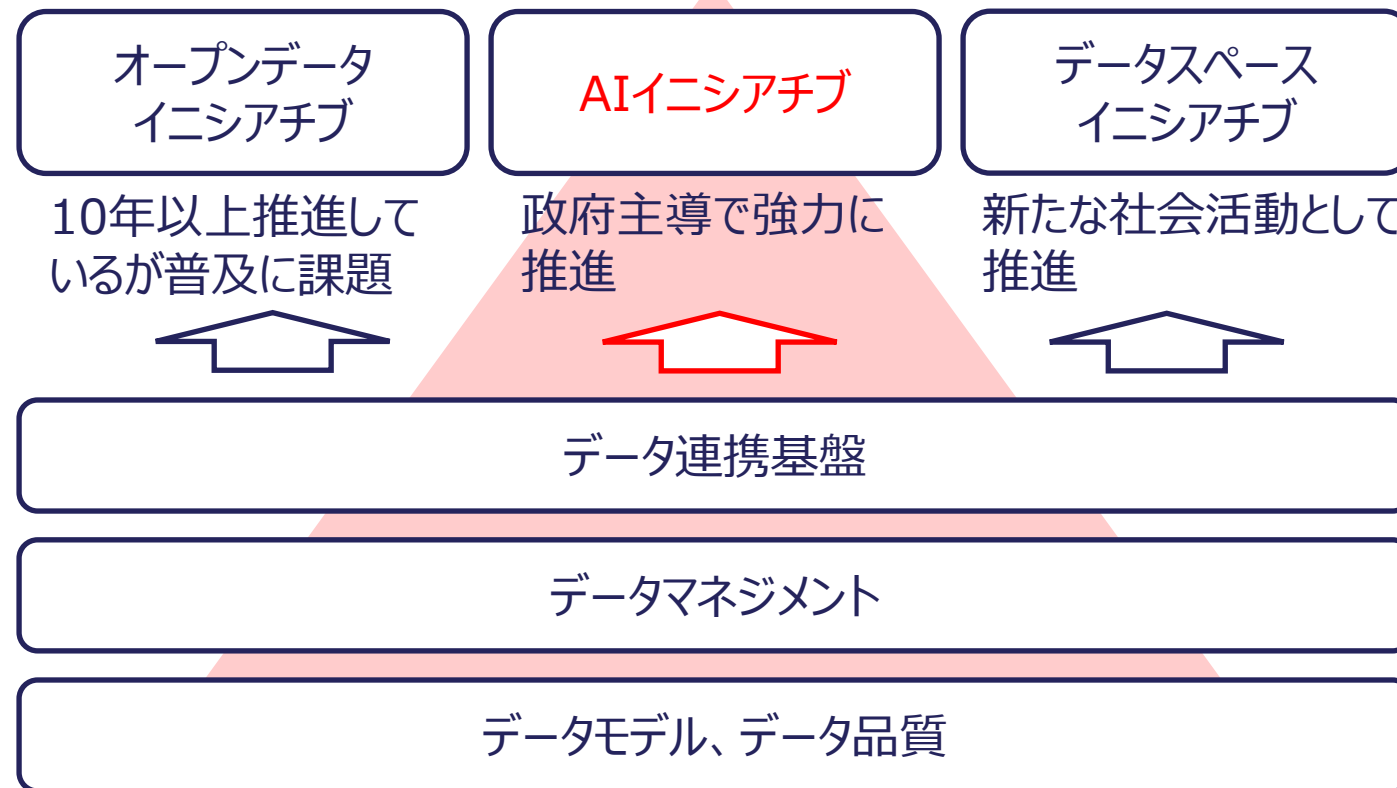
世界を取り巻く大きな流れ

戦略	各国とも戦略を整備。2030年頃がターゲット。
サービス	各国でサービス構築が進む。AIとの連携を模索。 日本も世界トップレベルの高度なサービスがある。
ルール	欧州で法整備が進む。
プラットフォーム	欧州は、政府主導のデジタル・ビルディング・ブロックやGaia-X、IDSA、fiware等の民間サービスを推進 日本は、国土交通プラットフォーム等の分野の連携基盤と、分野連携のDATA-EXを推進。
データ標準	欧州、米国ではデータ標準化を強力に推進。中長期の展望のもと進めている。 日本は、主要データのクラス図までGIFのデータモデルで制ヴィ
ベースレジストリ	欧州はほぼ整備終了。連携開始。 試行整備中。
アセット	高速、低速の回線が普及。
人材	先進国は教材やコースウェア整備を推進。 日本は人材が少なく、関連教材やコースが少ない。

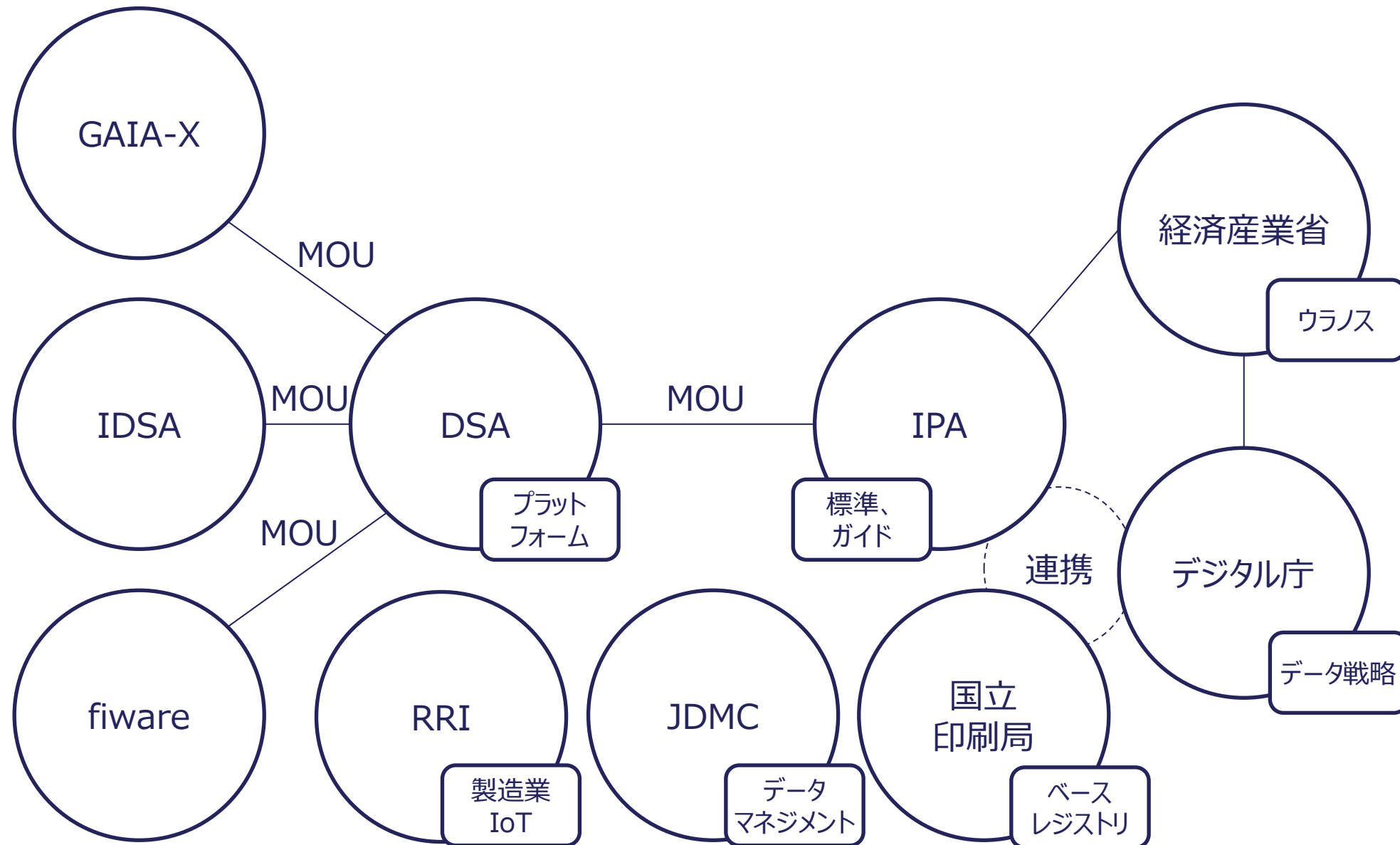
今後の展望

- ◆ AIの進展によりデータ基盤の整備は今後確実に求められる

デマンドサイドからの強力なニーズ

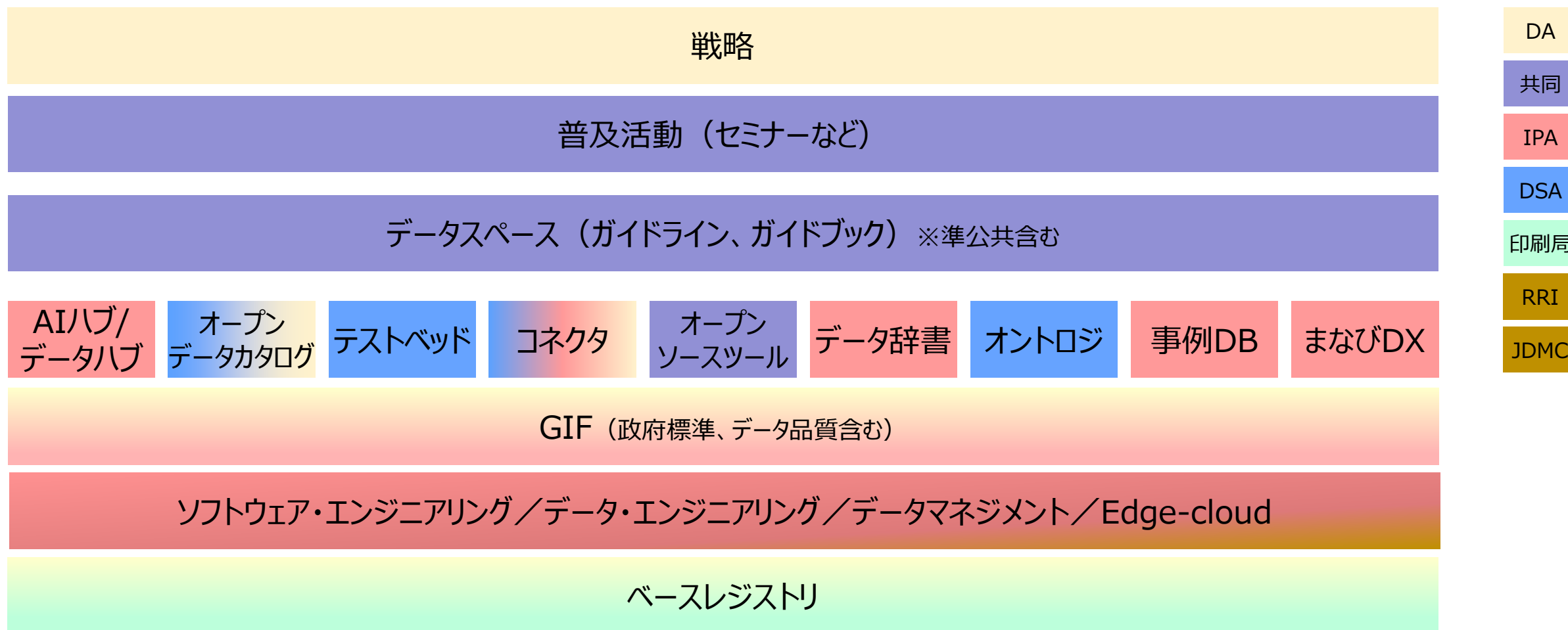


強力なチームの形成



データ社会の基盤を実現

- ◆ 各組織の連携強化により基盤を強化



ロードマップ案



みんなで目指すゴール案

IMDデジタル競争力ランキング

- 10位以上の上昇を数年以内に目指す。（まずはボトムから脱出）

